平成22年度NACSIS-CAT/ILLワークショップグループ討議成果物　H22.12.10

電子情報資源に対応した目録所在情報サービスの実現

ー利用の側面からー

１班　伊藤えりか　日本貿易振興機構アジア経済研究所
市東礼位子　首都大学東京
杉原繁子　山口大学
矢田貴史　島根大学

電子情報資源の拡大

- プラットフォームが散在
  OPAC, EJ-Portal, NACSIS-CAT, CiNiiなど
  各種二次情報DB、出版社・アグリケータのプラットフォーム, IR

→ユーザビリティ、ファインダビリティの向上が必要

- 情報の粒度も様々

「図書」「雑誌」　→　「一章」「一論文」

→情報単位に対応するメタデータと相互リンク機能など
目録記述が困難。

何が問題？・・・もう少し噛み砕くと

- 利用の側面

「何を使って探せばいいの？」

「色んなDBを使うのは面倒」

- 図書館業務の側面

・目録業務：多様な粒度の情報資源を適切に管理するには

・閲覧業務：利用者をどうナビゲートするか

・ILL業務：NACSIS-CAT/ILLだけでは対応できない資料が増えてきた。新しい資源を相互に活用するには

トレンドは？

- シンプルで統一的なインターフェース
  Googleライク
- サービス連携による機能拡張
  APIの活用など
- クラウド

図書館においても・・・

- リンクリゾルバ
- 次世代OPAC
  ex. Aquabrowser, Primo, Worldcat Local, Summon
- ERMS

「次世代目録所在サービスの在り方について（最終報告） 2009.03」電子情報資源への取り組み

１．資料:電子情報資源への対応

- 各機関　－　ERMS、OPAC
- NII　－　NACSIS-CAT、ERDB

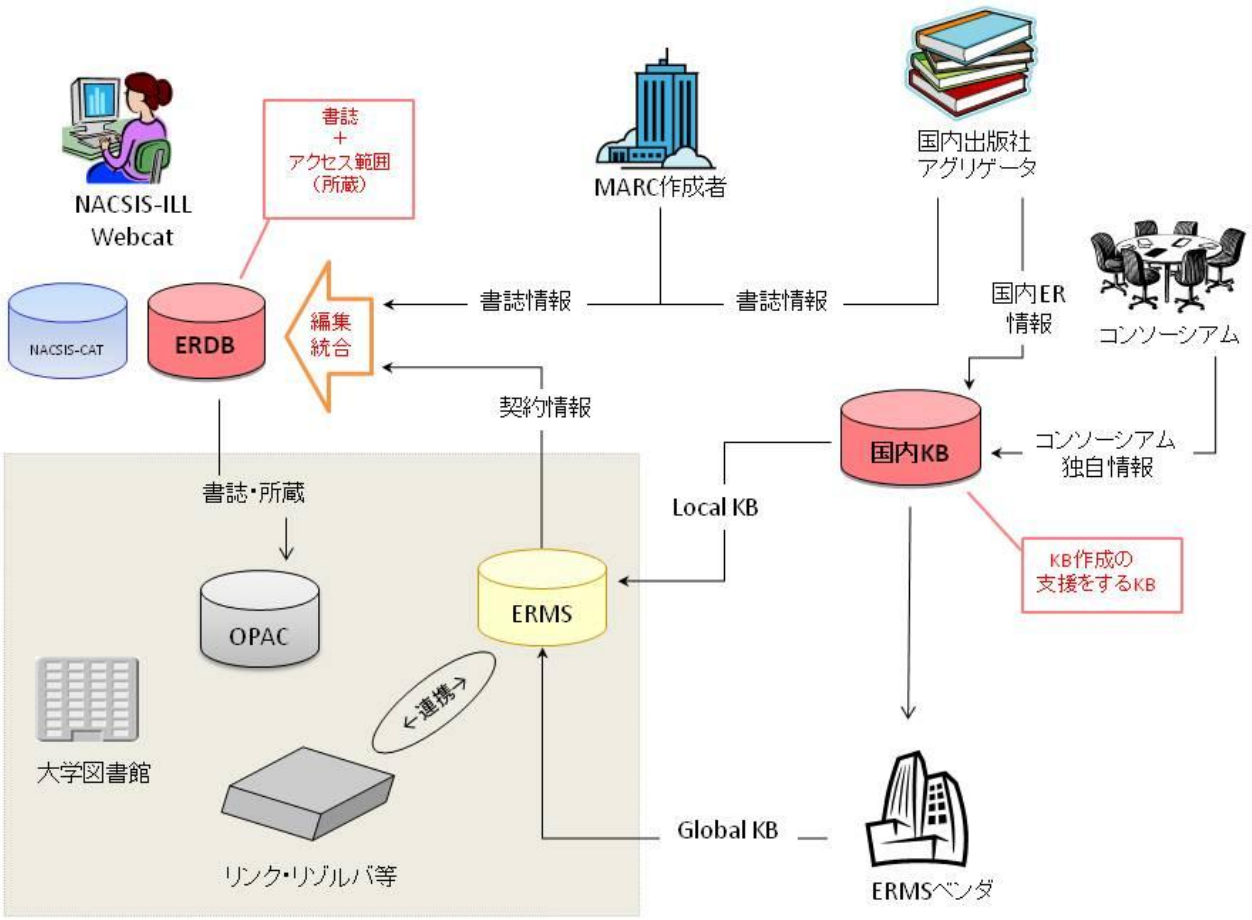
２.システム：データ構造とデータ連携
　APIの公開

３.運用：体制の抜本的見直しに向けて

具体案はあるが、大学間の連携に任されている

- 「目録センター」館の指定、インセンティブモデル、参加機関の機能別グループ化

電子情報資源管理のモデル案



電子情報資源管理のモデル案について

- ERMSを各大学でという案は、費用が心配。
- 小さい大学が置いていかれる。今までのNACSIS-CATのように、どこでも参加できるものである必要がある。
- リンクリゾルバについても、簡便なものを開発しては？
- これは現状に即した案であるが、将来的には思い切った案を目指す必要があるのでは？

「次世代目録所在サービスの在り方について（最終報告）」の具体化（NIIの事業）

- NACSIS-CAT のAPI開発として
- CiNiiBooks（2011.6試行）
- WebcatPlusの更新により、アカデミックな面を心配していたが、どのようなものになるのか期待している。
- CiNiiBooksの次の展開は？

目録の役割の変化

- 今の図書館(目録含む)は、使う側にとって、最適なサービスを提供できているだろうか。

- 利用者の行動に近づく必要あり

「利用」を重視する方向性：検索してアクセスできればいい

- 図書館業務として、書誌の品質と省力化（コストパフォーマンス）の問題
- 目録以外の業務に取り組む必要性

変化を受け入れる覚悟が必要？

On The Record

書誌コントロールの将来に関する米国議会図書館ワーキンググループ報告書　2008.1.9

五つの領域についての提言

- 図書館界全体での書誌作成の効率性向上
- 最も価値の高い活動への労力の注入
- 将来に向けた技術動向の明確化
- 将来に向けた図書館界の位置づけの明確化
- 図書館専門職の強化

　現在及び将来における資料の発見、入手を確実化するための投資としての目録作業が、はたして投資に見合った効果や成果を発揮できるのかが疑問視されるようになりつつある中で、共同性の強化、書誌レコードの共有の促進、それに全体的なサプライ・チェーンを通して形成されるデータ活用の最大化によって効率を向上化させ、より高い成果が期待できる領域へ活動をシフトすることが指向されている。

過渡期における地域の取り組みとして

- 中四国のEJDB

背景はビックディール後の学術情報基盤をどう保持するか

地域内国立大学の購入EJパッケージの情報を集約

パッケージ情報は提供、アクセス可能範囲、ILLでの利用可否がわかるように

利用は芳しくない、現時点では必要性が薄い？

将来の構想（案）

- 共有のクラウド的なOPAC
- 各館では、ローカルなOPACを所有しない
- 例えば、Worldcat local
- 費用も作業も省力化
- 運用案・・最終報告を参考に

センター館にあたる館（たとえば、場所がNIIでもいい）に、スキルアップのために図書館員も派遣する。国立大学だけではく、一定規模以上の公立・私立大学からも派遣する。１人図書館など参加の困難なところは費用を負担する。

これからの時代
本当に「使える」目録所在情報サービス
を目指し、柔軟な発想で
一緒に考えていきましょう！

ご清聴ありがとうございました。